

【2026 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
病理学	PSF12-005 OSF12-005 HSF12-010	(リ) 必修 (人) 選択	1	(リ) 1 (人-24) 1 (人 25) 1.2	後期 (後半)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
田中 将志	D301	m-tanaka	火・水・木 12:20~12:50		
授業の目的・概要	病気の仕組み (原因と発症機序) を理解し、病気の診断、治療および予防に役立つ方法を学ぶ。臓器組織の差を超えて共通にみられる基本 7 病変を、その成り立ちや種類などにより質的に分類し、疾患の原因、成り立ち、経過、転帰、などについて原則的にまとめ病気の原理を理解する。さらに、本科目は「解剖学」や「生理学」と関連する分野を含んでいる。これらの内容について、課題学習等を通して理解するとともに、講義時の意見交換や、提出課題に対するフィードバックを活用して包括的な理解につなげる。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他 (<input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク)				
学習上の助言	本科目では特に復習が効果的である。疑問が生じた場合は、授業中やチャット等で随時質問して早めに解決すること。				
教科書	系統看護学講座 基礎専門分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 第 6 版第 4 刷 /著:大橋健一 他/医学書院 /2024				
参考書	特になし。				
外部教材	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	病気の成り立ちに必要な専門用語の定義を正しく説明できる。			HSU(1)、(2)、(3)	
②	病気の成り立ちについて総論的に理解できる。			HSU(1)、(2)、(3)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	概論 (病理学の歴史、位置づけ、役割) について学ぶ。	対面式の講義を行う。教科書に基づく資料を配布する。教科書・資料の解説とともに、重要な部分に関する課題を授業中に配布し、授業時に取り組ませて提出させ、次回までにフィードバックする。	教科書第 1 章を確認しプリントで復習する。	3.75	
2	退行性病変 (萎縮、壊死など) について学ぶ。		教科書第 2 章を確認しプリントで復習する。	3.75	
3	進行性病変 (肥大、過形成など) について学ぶ。		教科書第 2 章、第 3 章を確認しプリントで復習する。	3.75	
4	循環障害 (浮腫、血栓症など) について学ぶ。		教科書第 5 章を確認しプリントで復習する。	3.75	
5	炎症 (免疫細胞、アレルギーなど) について学ぶ。		教科書第 2 章、第 3 章を確認しプリントで復習する。	3.75	
6	腫瘍 (分類、腫瘍発生の病理など) について学ぶ。		教科書第 9 章を確認しプリントで復習する。	3.75	
7	先天異常と遺伝性疾患 (遺伝の生物学、遺伝性疾患) について学ぶ。		教科書第 8 章を確認しプリントで復習する。	3.75	
8	代謝障害 (脂質・タンパク質・糖質やその他の代謝障害) について学ぶ。		教科書第 6 章を確認しプリントで復習する。	3.75	
試	定期試験: 達成度評価・評価のポイント参照				

【2026 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		100	0	0	0	0	
総合 力 指 標	知識・技術力	70	0	0	0	0	70
	思考・推論・創造する力	30	0	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に定期試験を実施して評価する。評価割合は 100%とする。試験では、授業内容に関連した課題プリント等に基づく応用問題を出題し、理解度を問う。				試験結果の返却とともに、正解を提示する。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	博士（理学）を有し、アメリカの大学や国内の研究所にて研究員としての研究経験を有する。						
実践的授業の内容	担当教員は、博士（理学）を有し、国際誌へ研究成果を論文として発表する、基礎医学の専門家である。世界最新の知見に基づいた講義を実施することが可能である。						
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ● Teams を使って資料を配布する。課題ダウンロード等があるため、通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意すること。 ● 授業時にはパソコンを持って来ること。授業終了前に、取り組んだ課題をオンラインで提出してもらう。 ● 受講態度に問題があり、注意しても守れない学生は退室してもらう。 ● 大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。 ● 今後の社会情勢によって再度シラバスの変更があり得る。 						